

「たがわ発見モデルコース⑨」

# 祭りだ、祭りだ、田川の祭りだ

田川市

開催時期 / 毎年5月第3日曜日とその前日



## 風治八幡宮

神社のご神体を神輿に移して神幸祭祭典が行われます。同時に各地区から出発した山笠が神社下に集合。神輿が合流するのを待って、14時40分ごろ伊田郵便局前へと向かい、飾り付けが行われます。



神輿は境内を練り参道を下ります。



## 田川伊田駅前

神輿と山笠一行が15時ごろ到着。駅前を練り回ります。一帯には屋台が立ち、まち全体がたいへんな賑わいを見せます。



## 風治八幡宮川渡り神幸祭 ～1日目のおおまかな流れ～

**13:30「風治八幡宮 神幸祭祭典」**  
この祭りのスタートとなる祭典です。御神体を神輿に移し、出発準備を行います。

**14:30頃 風治神輿出発**  
神社境内を練り参道を下ります。

**14:40頃 神輿合流**  
神社下の所定位置にて合流し、一旦山笠の側を通り抜け伊田郵便局へ向かいます。

**14:50頃 神輿伊田郵便局前出発**  
停車中の山笠の脇を通り抜け、JR田川伊田駅前を練り彦山川へ向かいます。

**15:30頃 「獅子舞奉納」**  
川渡り前、河川敷にて安全を祈願し奉納されます。

**16:00頃 「川渡り神事」**  
神輿と山笠が整列し、山笠は囃子を止め、会場は静寂に包まれます。神輿指揮者の合図により神輿2基が同時に立ち、山笠は「ガブリ(山笠を前後に倒す)」をひとしきり行い、「流れ終了」となります。

**18:00頃 「お旅所」**  
神輿がお旅所に入った後、1～11番山笠の順でお旅所へ。ひとしきりお旅所で練った後は所定位置に山笠を納め、提灯などを飾りつけます。

## 成道寺公園・田川市総合体育館

新緑まぶしい季節、市民に親しまれている成道寺公園や田川市総合体育館ではツツジが満開です。



## 彦山川河川敷

香春岳を望む彦山川河川敷に、鮮やかに飾り立てられた山笠11基が集合。そしてよいよ鉦太鼓をうち鳴らしながら、山笠は次々に川のなかへ。目の前の勇壮なシーンに観客から大歓声があがります。

## お旅所

提灯などで飾りつけられ、夜間に山笠が浮かび上がり、あたりは幻想的な雰囲気。こちらぜひ見ておきたいものです。



## 四季さいさい

### 丸山公園の桜

田川後藤寺駅の近くにある桜の名所。シーズンになると約1000本のソメイヨシノが咲き誇り、花見客で賑わいます。



### 岩亀八幡神社の伊加利人形芝居

伊加利村に伝わる人形浄瑠璃。江戸時代末期、幼い子どもが犠牲になる疫病終息を祈願したことが由来とされ、毎年正月に欠かさず奉納されています。



## ■香春神社神幸祭【香春町】

香春に渡ってきた新羅の人々の神を祀る当神社では、5月に神幸祭が行われます。



## ■金村神社豊作祈願田植祭

【糸田町】  
主人のムクデ、女房のオカツ、牛と牛使いの農夫らがユーモラスに、一昔前の農作業を再現して豊作を祈願します。毎年3月15日に開催。



## ■英彦山神宮の神幸祭【添田町】

毎年5月に行われる英彦山神宮の例祭。御輿渡御や稚児舞、獅子舞などの伝統行事が地元の人々によって継承されています。



# 田川地域の祭り

伝統色豊かな田川地域のまつりの数々。観光のついでに参加してみたいかが。

## ■南木菅原神社の神幸祭【福智町】

大宰府に向かう菅原道真が立ち寄ったという神社。毎年5月上旬に開催される神幸祭では村の人々による獅子舞などが奉納されます。



## ■我鹿八幡神社神幸祭【赤村】

1804年以来続く行事。戦後、一次中断しましたが、地域の保存会によってよみがえりました。旗で飾り立てられた山笠が村内を練ります。



## ■糸田祇園山笠【糸田町】

1700年ころから伝わる伝統行事で、ばれんや旗で飾り立てた高さ6mの山笠を若者たちが担いで練り歩きます。毎年5月第2土・日曜日に開催。



## ■正八幡神社の杖楽【川崎町】

源頼朝の時代にさかのぼる行事で、杖や刀、鎌を使った武術的な楽を奉納。源氏の興隆と武運を祈ったのが始まりです。



## ■神幸祭【大任町】

五穀豊穡と家内安全を願って、各地域ごとに色とりどりに飾った山車が練り出します。4月下旬～5月上旬に開催されます。



### かつての山の男たちの 気概が伝わる 勇壮な川渡りの神事。



田川一帯は祭りの宝庫。なかでも山笠の豪快な川渡りで知られ、福岡県の5大祭りのひとつに数えられるのが毎年、5月下旬に行われる田川市の風治八幡宮川渡り神幸祭(ふうじはちまんぐうかわわたりじんこうさい)です。  
始まりは約450年前。永禄年間、伊田で疫病が流行した際、風治八幡宮境内の祇園社に祈願し、見事治まったことへの御礼として奉納されたといわれています。

風治八幡宮から彦山川を挟んだ対岸の「お旅所」まで、2日をかけて往復するこの神事、当初は旗山笠3基で行われていたが、近年ではその数も増えて11基に。飾りも絢爛豪華なものになり、五穀豊穡を願って稲穂をかたどり、5色や7色に彩られた「ばれん」や、緋色の旗などで飾り立てられます。

やはり見どころは川渡り。初日は安全を祈願して獅子舞が奉納されたあと川に入り、16時には先陣の神輿と11基の山笠が川のなかに。ここで山笠は「ガブリ」(山笠を波打つように大きくゆする)を行い、山笠の競争へ突入。川渡りはクライマックスを迎えます。このあとお旅所へ上陸し、初日が幕をおろします。  
翌日は14時30分ごろから風治八幡宮へ向けての川渡り神事。約1時間をかけて11番山笠から順次、神社側に上陸します。そして、17時30分ごろ、神輿が神社に帰還すると、山笠は飾りを取り外して地元へと戻ります。  
初日、若衆達が川なかで山笠をガブリながら、氣勢をあげてお互いに水を掛け合うさまは勇壮。筑豊の川筋男の気概が初夏の空気をふるわせて大勢の見物客に伝わっていきます。

なお、この時期、成道寺公園や田川市総合体育館付近のツツジが見頃。祭り見物に合わせて訪れてみましょう。